

郊外へ足を踏み出すと、田んぼや畑、川や池や沼といった変化に富んだ環境に出会うことができます。以前はこうした丘陵地（低い山や丘）や田畠などでは人の生活の場と自然が一体になって「里山」とよばれる環境ができあがっていました。今でもそのなごりは雑木林や田畠のまわりに残っていることでしょう。また、お寺の境内や神社の鎮守の森でも日本の本来の自然の一部を感じることができます。こうした郊外の環境は、新しい都市の環境よりなれていますとともにあって、在来種が元気です。でも、そこでも新しい土地で生きのびようとする外来種とのはげしい競争がおこっています。郊外で見られるいろいろな植物をじっくり観察してみましょう。



ヨウシュヤマゴボウ



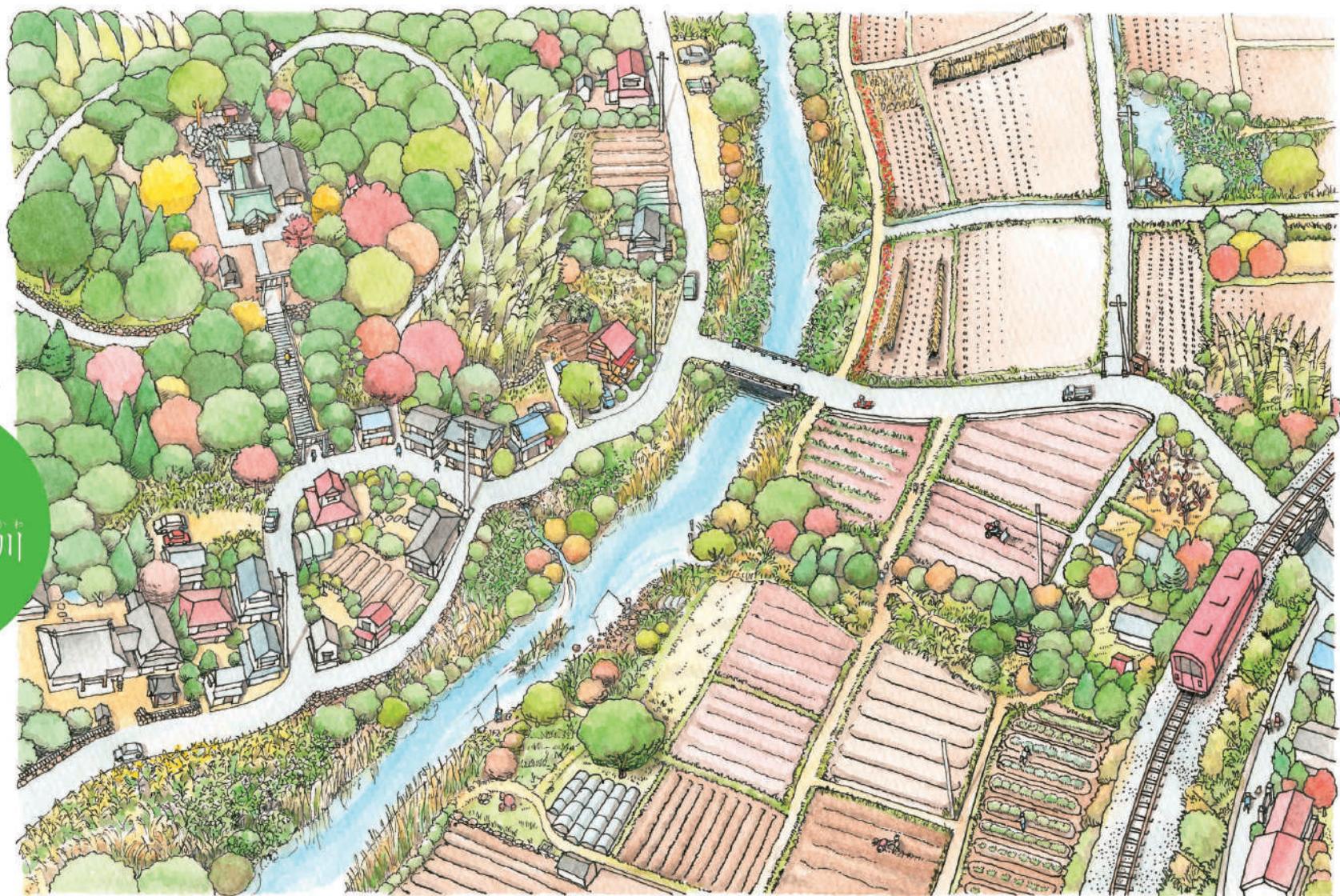
ホティアオイ



セイタカアワタチシウ



アメリカセンダンクサ



あまり
見かけなくなった
日本の秋の花



花が咲いたあとでは、秋には、
小さな綿毛のある実がびっしりついて、やがて風に吹かれて飛んでいく。

1900年ごろに切り花用に輸入された北アメリカ生まれの背の高い草です。根からほかの草の成長をおさえ成分を出して自分が育つ場を確保する性質があり、第二次世界大戦後に爆発的にふえ、各地の空き地や埋め立て地などに群生しました。しかし、その成分が自分にも効いて、今では一時よりは数が減ったようです。

2mを超える
背高植物

セイタカアワダチソウ



●分類:キク科・
アキノキリンソウ属
●花期:8~11月
●原産地:北アメリカ
●渡来時期:明治時代

外来種



●分類:キク科・アキノキリンソウ属
●花期:8~11月
●分布:北海道、本州、四国、九州

在来種

アキノキリンソウ



秋に林縁などに咲く背丈0.5~1mほどの在来種です。花数が少なく、大きな群れを作ることもないので、外来種とくらべると地味ですが、山道に咲く黃色い花は風情があります。花がお酒を作るときの泡に似ているところから「アワダチソウ」の別名があります。



オオアワダチソウ

セイタカアワダチソウに似ていますが、少し背が低くて花の茎の先端がたれているのが特徴です。花の時期も早く、夏に咲きます。



●分類:キク科・
アキノキリンソウ属
●花期:7~9月
●原産地:北アメリカ
●渡来時期:明治時代

外来種



オオオナモミ

これぞ
ひっつきむしの
代表!

北アメリカ生まれで大きいものは草丈が人の背丈くらいになります。やや湿った空き地や田んぼの周辺などによく群生しています。実にはかぎ爪のあるトゲがあって、衣服やけものの毛にくっついて運ばれる「ひっつきむし」とよばれる仲間です。

- 分類:キク科・オナモミ属
- 花期:8~10月
- 原産地:北アメリカ
- 渡来時期:昭和時代

外来種

イガオナモミ



外来種

いちばん大きな
ひっつきむし

海岸付近や荒れ地などに多く、実はオオオナモミよりも大きくて丸っこい感じで、かぎ爪のあるトゲにさらに細かい毛のようなトゲが生えているのが特徴です。葉も若い実もほかのオナモミの仲間より黄緑色がかる傾向があります。

- 分類:キク科・オナモミ属
- 花期:8~10月
- 分布:日本全土

在来種

在来種のオナモミは大昔に中国から来た史前帰化植物ではないかと考えられています。それが今では新しい時代に入ってきた外来種のオオオナモミやイガオナモミにおされてか、ほとんど見かけなくなりました。

オナモミ

夏から秋に茎の先に黄緑色の花をつけ
る。雄花は球状で、その下に雌花がつく。



激減した
日本のオナモミ



イガオナモミ

オオオナモミ

オナモミ

オナモミの実がいちばん小さくてトゲの数も少なめ。



強力なヒツキ虫
動物の毛や人間の衣服にくっついて分布を
広げる植物の種をヒツキ虫といいます。
その代表がオナモミです。

